

# 賃貸名人の通信を Windows ファイアウォールに許可させる

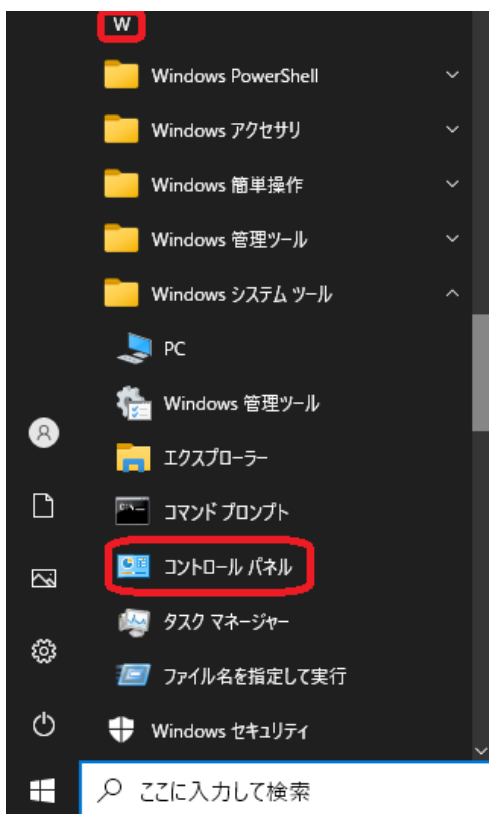
## 〔目次〕

1. SQL Server 2017/2016 .....	1
2. SQL Server 2008 R2 [Windows 10 32bit/64bit の場合] .....	7
3. SQL Server 2005 [Windows XP SP2 以降の場合] .....	14
4. SQL Server 2005 [Windows 7 32bit/64bit の場合] .....	20
5. MSDE [Windows XP の場合 Port:1433] .....	28

## 1. SQL Server 2017/2016

※以下の手順は、Windows ファイアウォールが「有効」に設定されているサーバ(親機)が対象です。  
クライアント(子機)における設定は不要です。

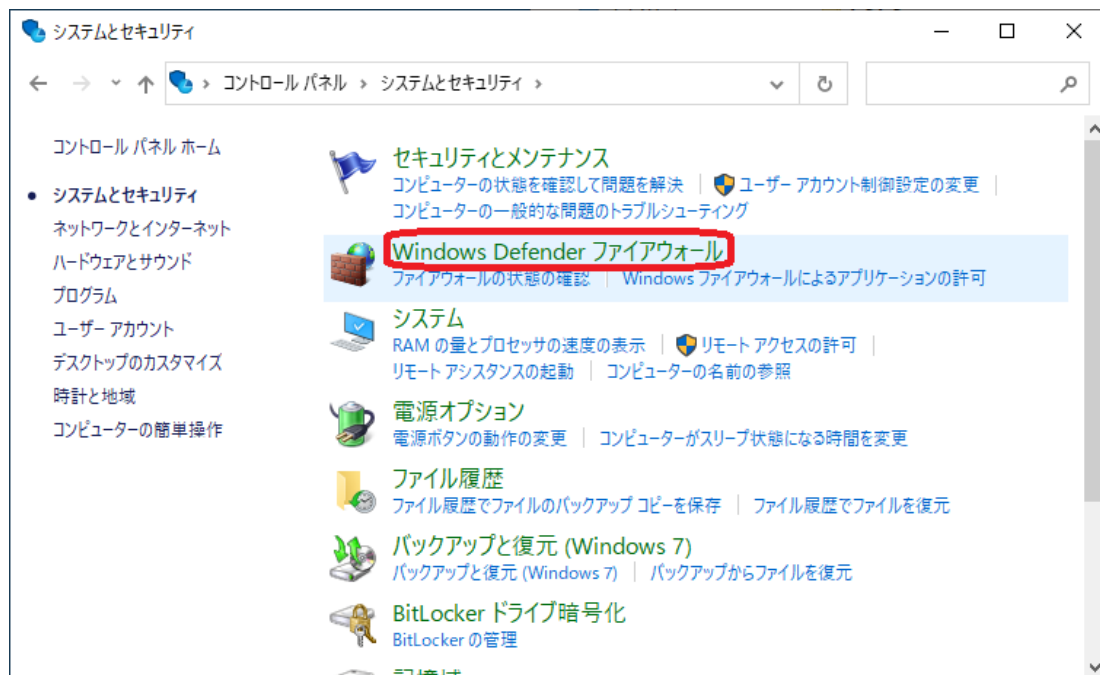
1. スタートをクリックし、Windows システムツールの [コントロール パネル] をクリックします。



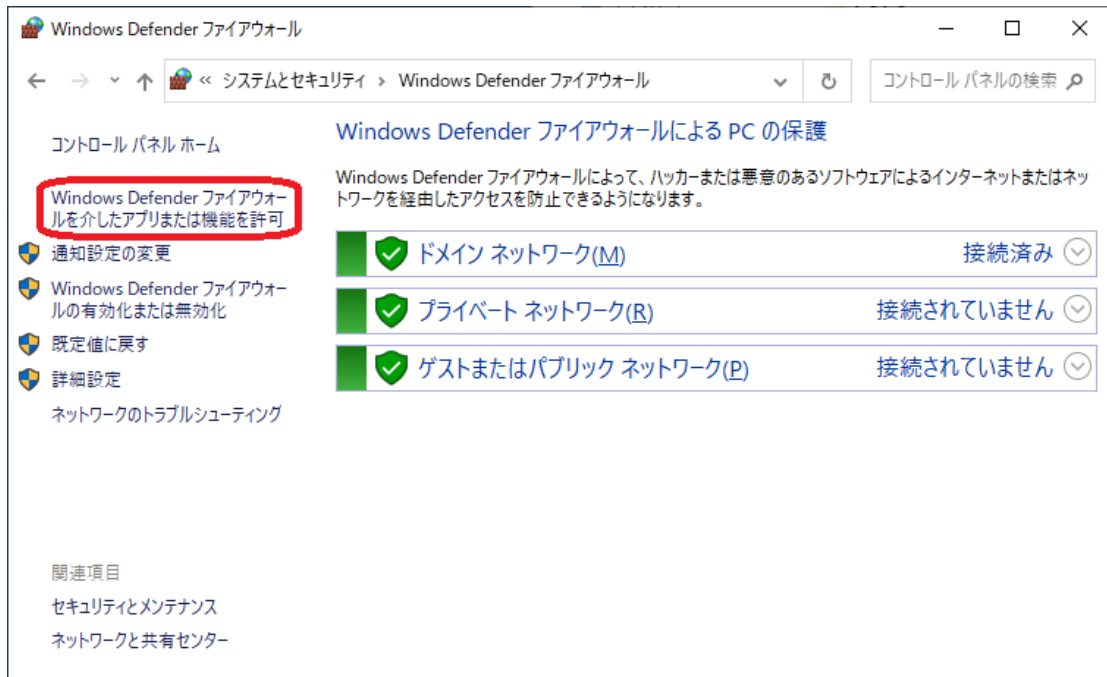
2. [システムとセキュリティ] をクリックします。



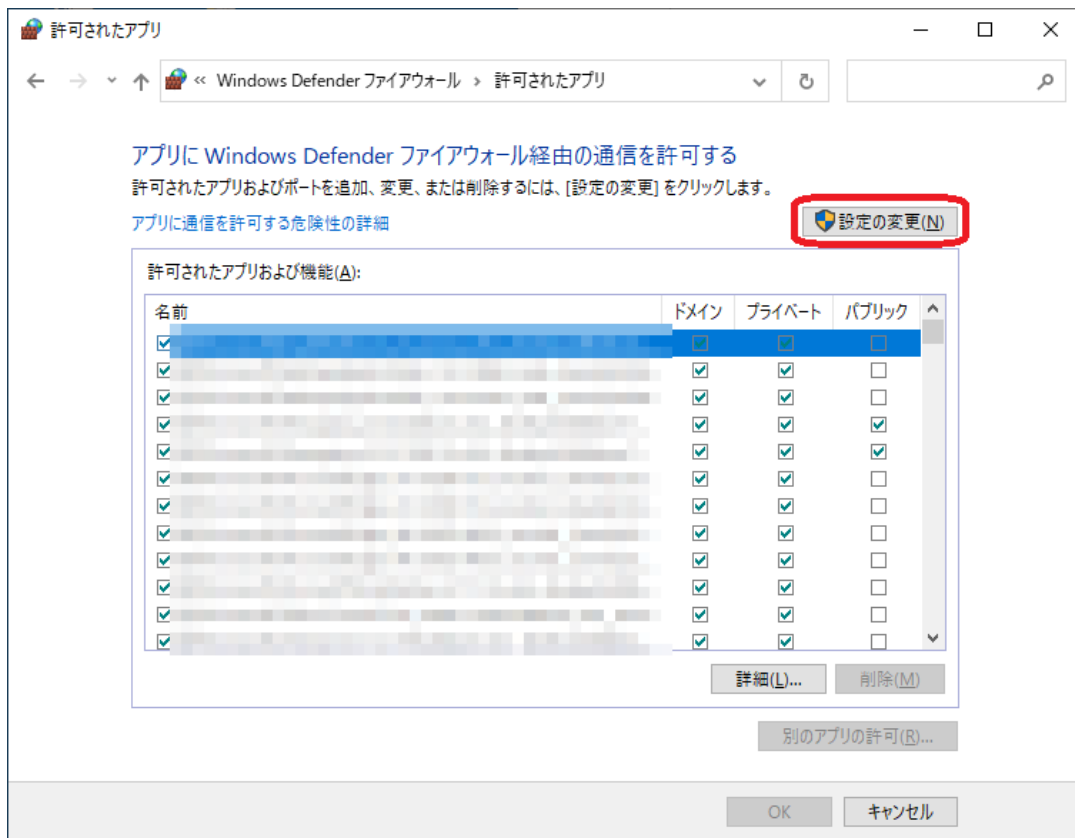
3. [Windows Defender ファイアウォール] をクリックします。



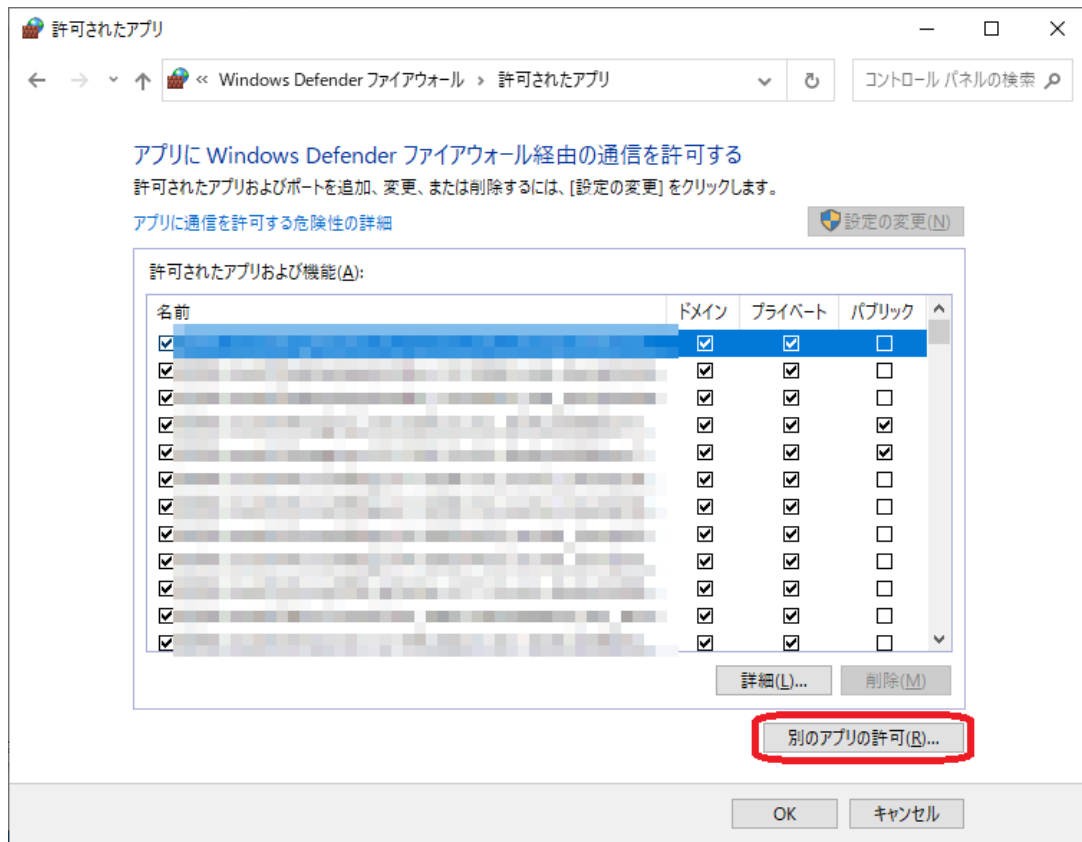
4. [Windows Defender ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] をクリックします。



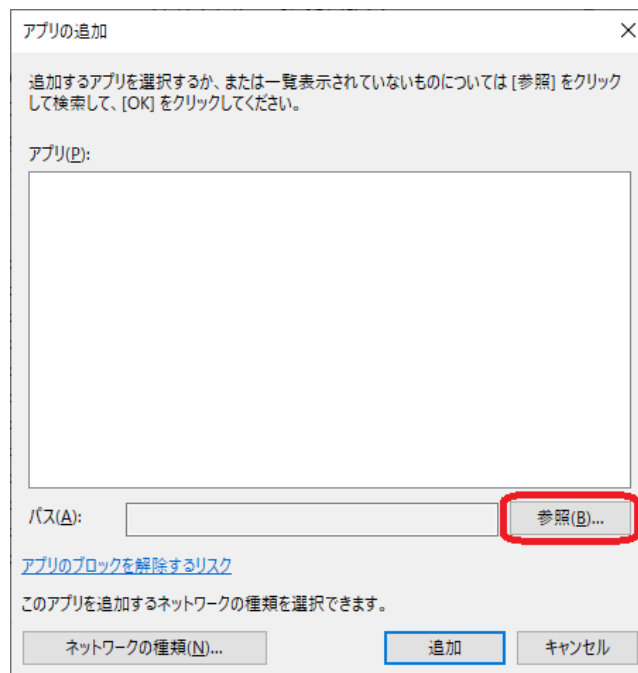
5. [設定の変更] ボタンをクリックします。



6. [別のアプリの許可] ボタンをクリックします。



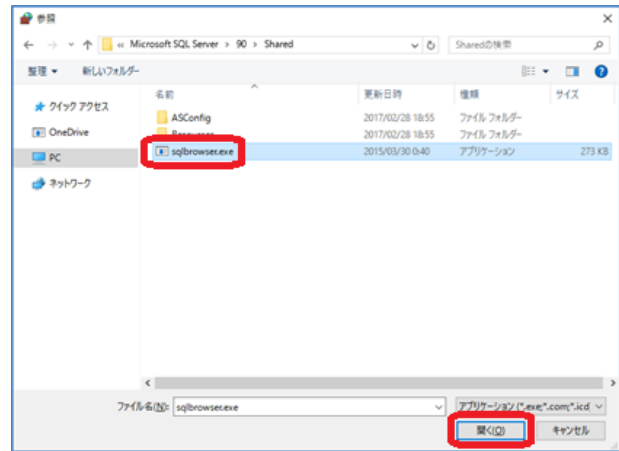
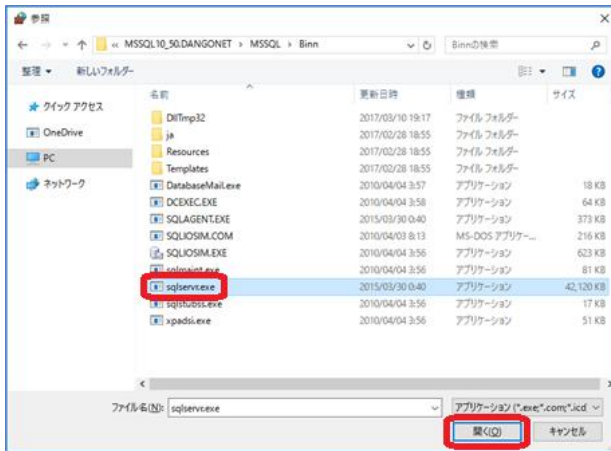
7. [アプリの追加] ダイアログで、[参照] ボタンをクリックします。



8. [参照] ダイアログで、ファイル「sqlservr.exe」「sqlbrowser.exe」をそれぞれ選択します。

① 「sqlservr.exe」

② 「sqlbrowser.exe」



Windows ファイアウォールの例外ルールに追加するファイルの場所は、以下の通りです。

① 「sqlservr.exe」

#### Microsoft SQL Server 2019

C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL15.DANGONET\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

#### Microsoft SQL Server 2017

C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL14.DANGONET\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

#### Microsoft SQL Server 2016

C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL13.DANGONET\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

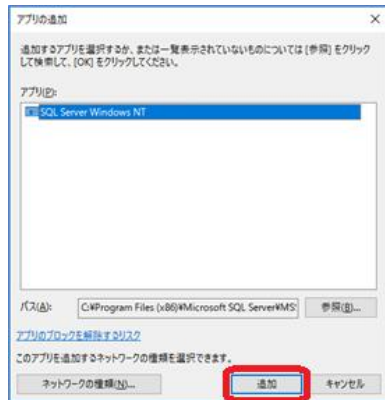
② 「sqlbrowser.exe」

#### Microsoft SQL Server 2019・2017・2016

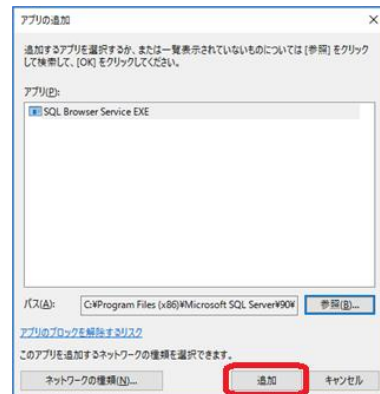
C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\90\Shared\sqlbrowser.exe

9. それぞれ [追加] ボタンをクリックします。

① 「sqlservr.exe」



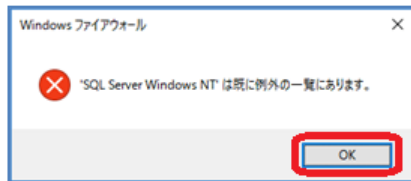
② 「sqlbrowser.exe」



以下のメッセージが表示された場合は、設定は不要です。

[OK] ボタンをクリックし、[プログラムの追加] ダイアログで [キャンセル] します。

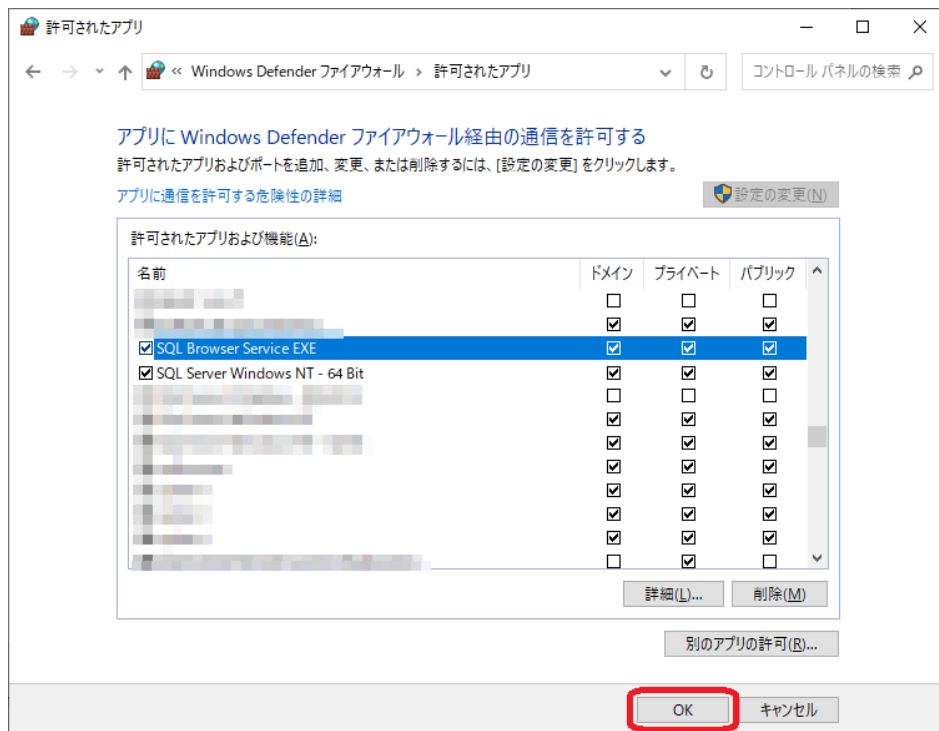
① 「sqlservr.exe」



② 「sqlbrowser.exe」



10. [OK] ボタンをクリックし、コントロールパネルを閉じます。

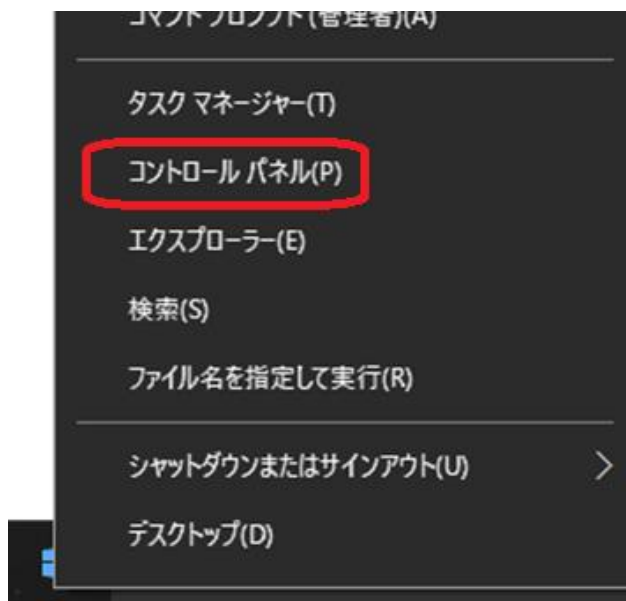


以上で設定は完了です。クライアントからの接続をご確認ください。

## 2. SQL Server 2008 R2 [Windows 10 32bit/64bit の場合]

※以下の手順は、Windows ファイアウォールが「有効」に設定されているサーバ(親機)が対象です。  
クライアント(子機)における設定は不要です。

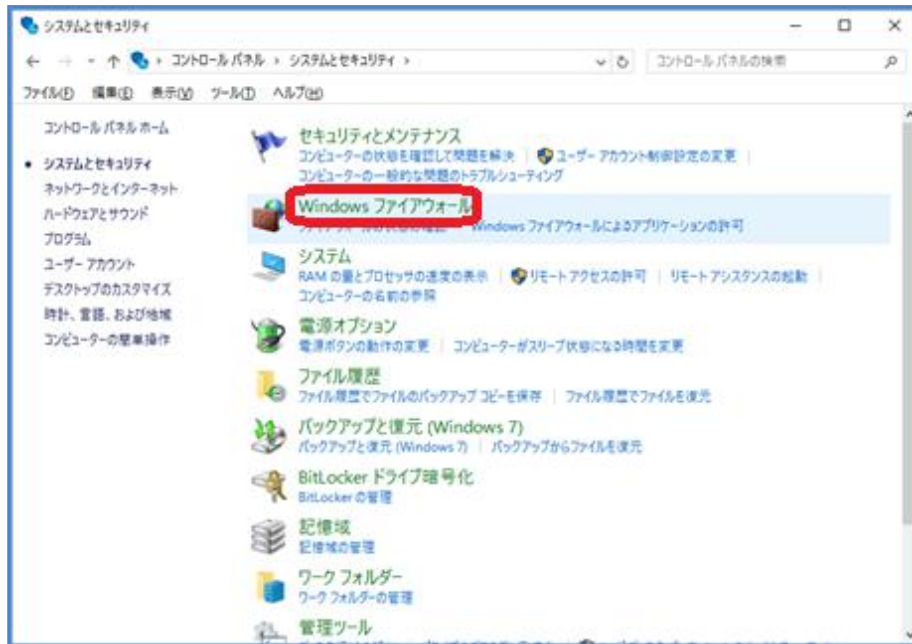
1. [スタート] ボタンの上で右クリックし、[コントロール パネル] をクリックします。



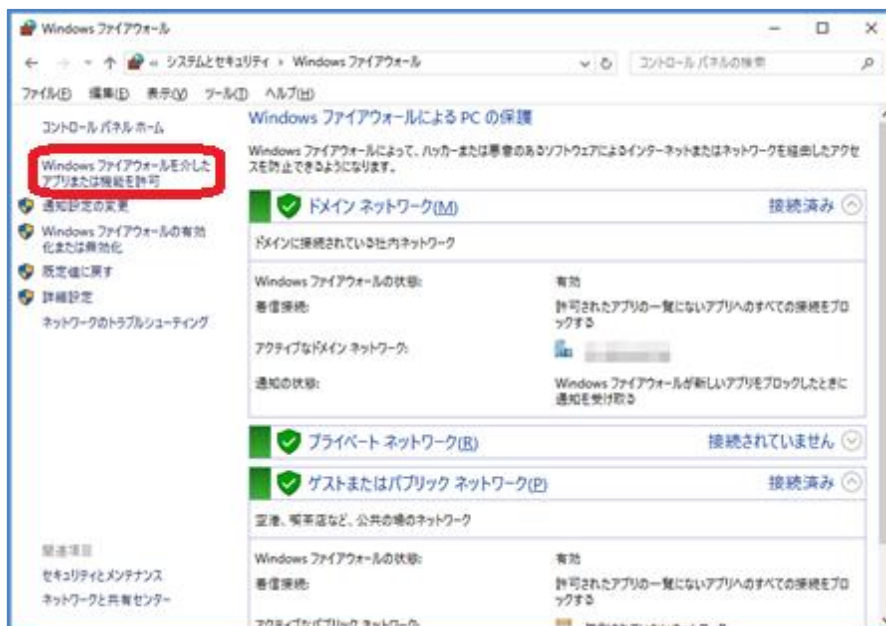
2. [システムとセキュリティ] をクリックします。



3. [Windows ファイアウォール] をクリックします。

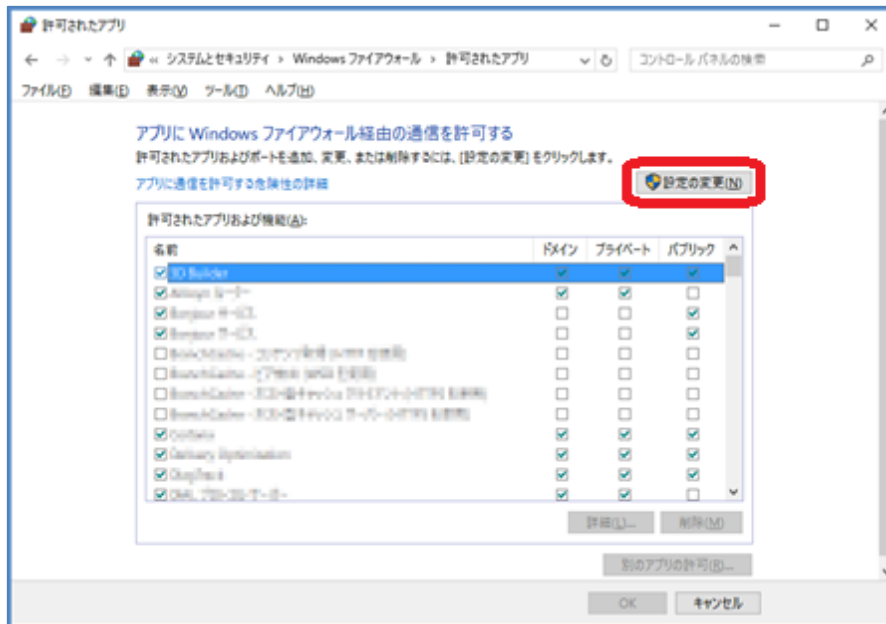


4. [Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可する] をクリックします。

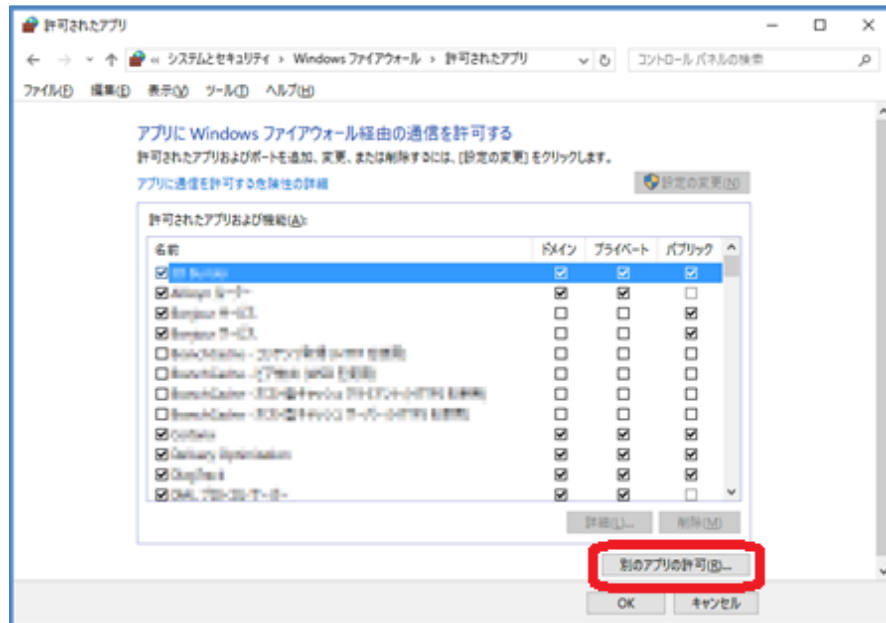




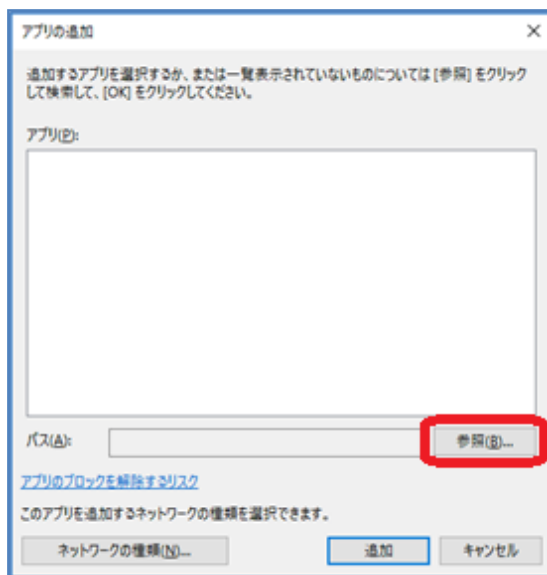
5. 「設定の変更」ボタンをクリックします。



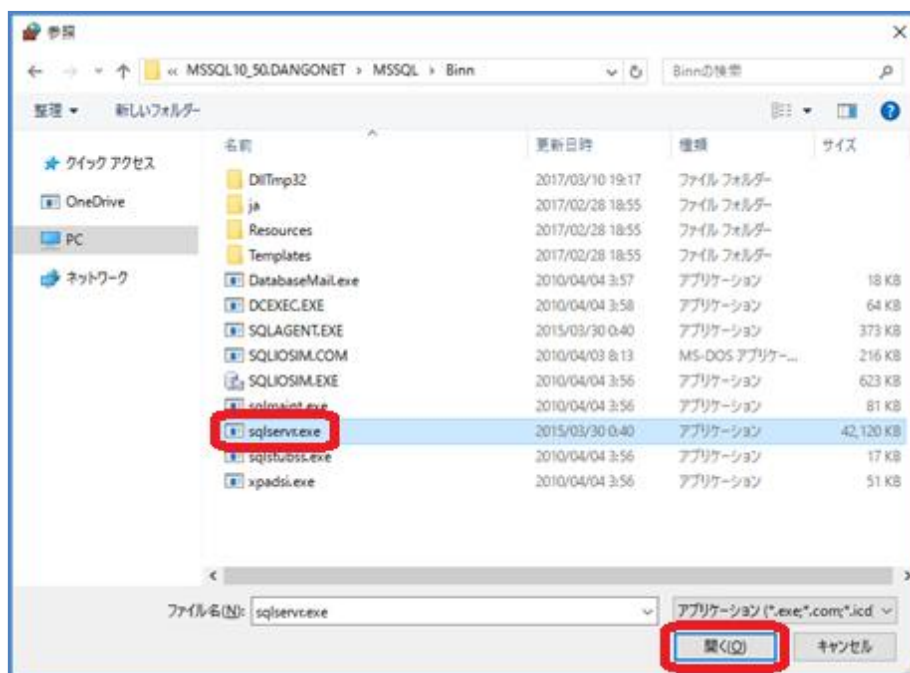
6. 「別のアプリの許可」ボタンをクリックします。



7. [プログラムの追加] ダイアログで、[参照] ボタンをクリックします。



8. [参照] ダイアログで「sqlservr.exe」を選択し、[開く] ボタンをクリックします。



• 32 ビット OS の場合

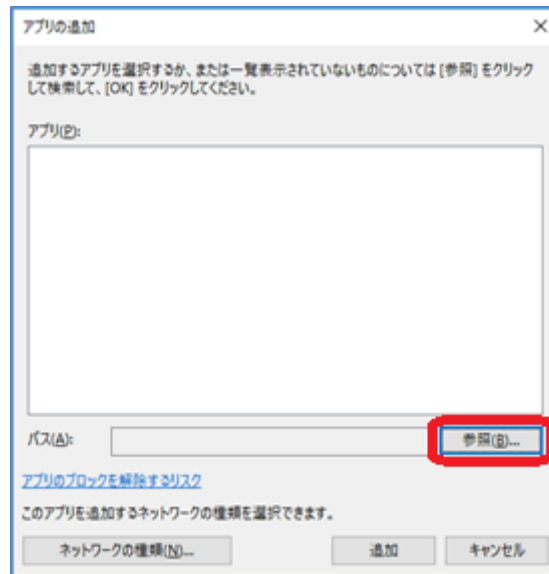
[コンピューター] → [ローカル ディスク(C:)] → [Program Files] → [Microsoft SQL Server] → [MSSQL10\_50.DANGONET] → [MSSQL] → [Binn] → [sqlservr.exe]

• 64 ビット OS の場合

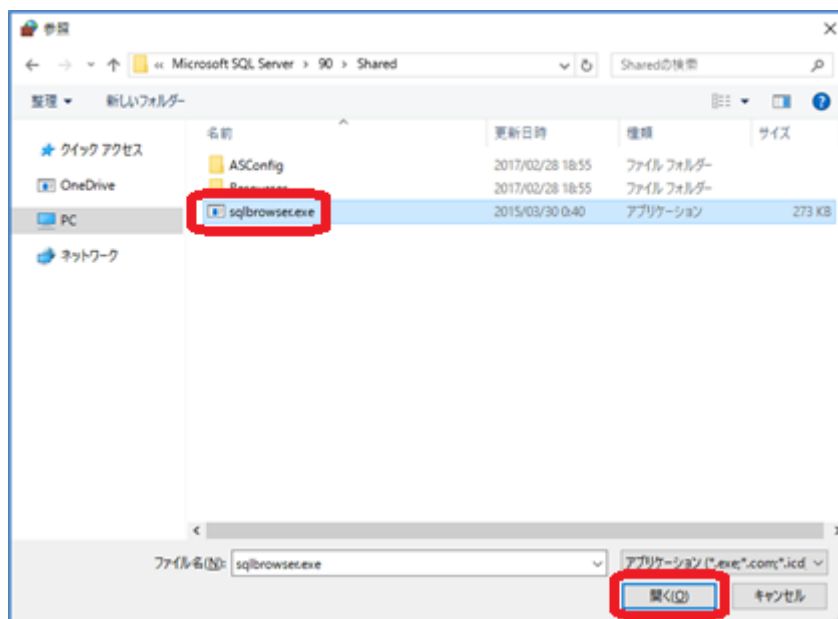
[コンピューター] → [ローカル ディスク(C:)] → [Program Files (x86)] → [Microsoft SQL Server] → [MSSQL10\_50.DANGONET] → [MSSQL] → [Binn] → [sqlservr.exe]



11. [プログラムの追加] ダイアログで、[参照] ボタンをクリックします。



12. [参照] ダイアログで「sqlbrowser.exe」を選択し、[開く] ボタンをクリックします。



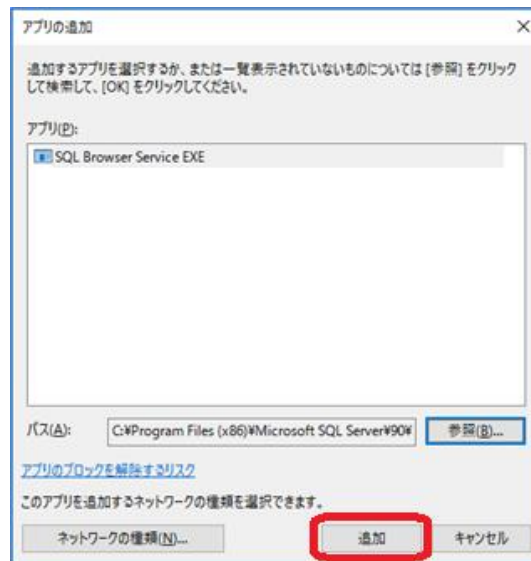
• 32 ビット OS の場合

[コンピューター] → [ローカル ディスク (C:)] → [Program Files] →  
[Microsoft SQL Server] → [90] → [Shared] → [sqlbrowser.exe]

• 64 ビット OS の場合

[コンピューター] → [ローカル ディスク (C:)] → [Program Files (x86)] →  
[Microsoft SQL Server] → [90] → [Shared] → [sqlbrowser.exe]

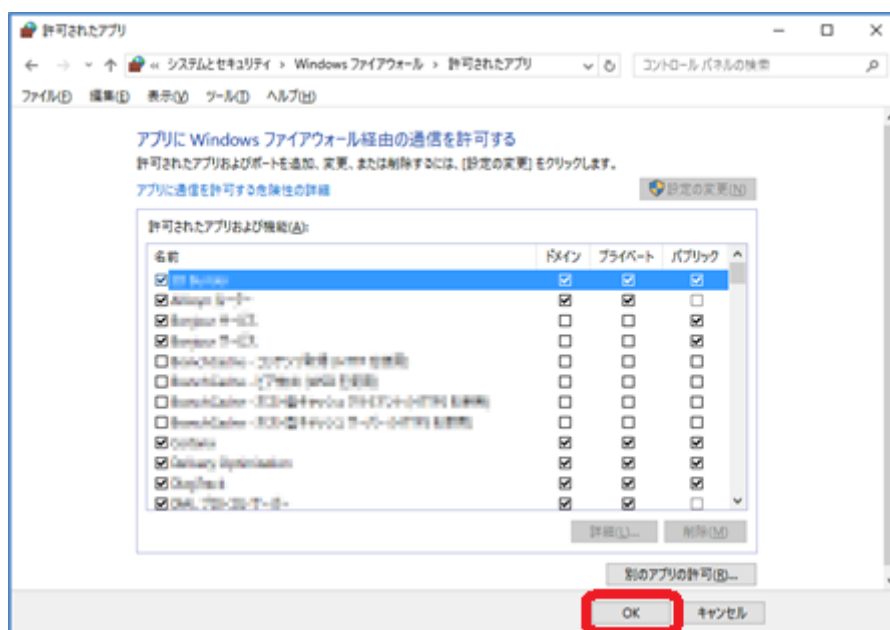
13. [プログラムの追加] ダイアログで、「SQL Browser Service EXE」を選択し、[追加] ボタンをクリックします。



※以下のメッセージが表示された場合は、「SQL Browser Service EXE」に対する設定は不要です。  
[OK] ボタン→ [プログラムの追加] ダイアログで、[キャンセル] ボタンをクリックします。



14. [OK] ボタンをクリックします。

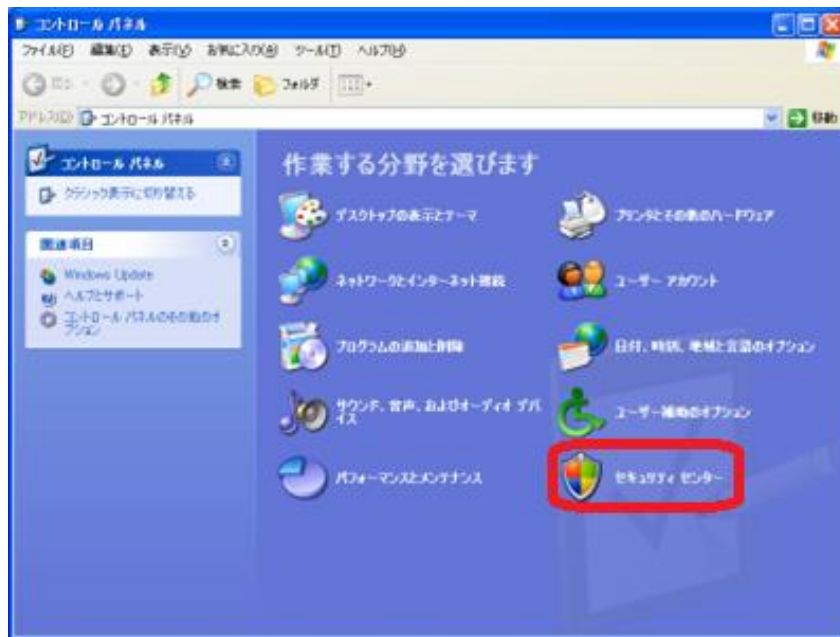


以上で設定は完了です。クライアントからの接続をご確認ください。

### 3. SQL Server 2005 [Windows XP SP2 以降の場合]

※ 以下の手順はサーバ機で Windows ファイアウォールが「有効」に設定されている場合に、サーバ機にて行う必要があります。クライアント側での設定は不要です。

[コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。



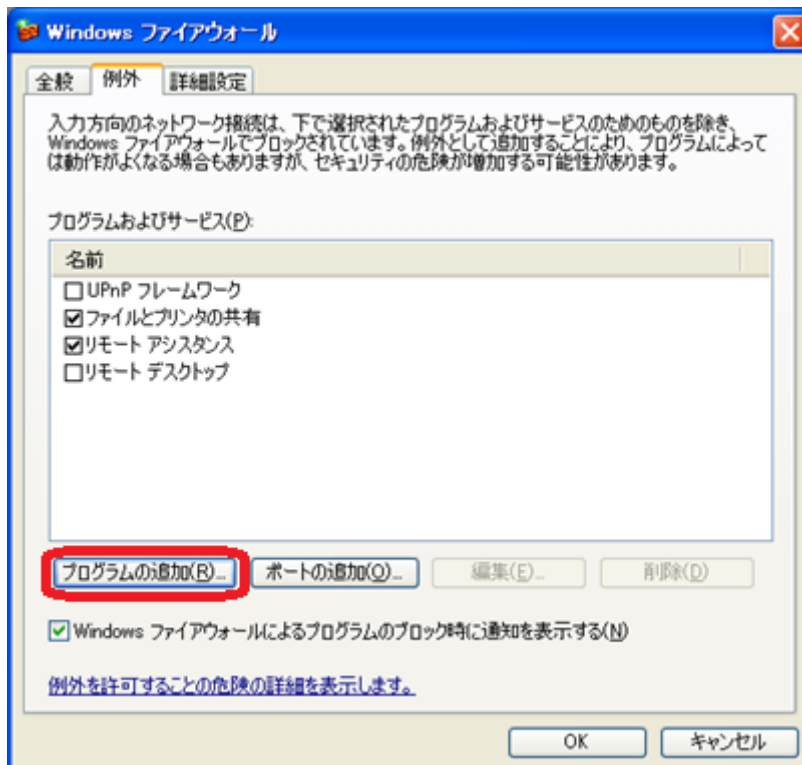
次のウィンドウが展開しますので [Windows ファイアウォール] をクリックします。



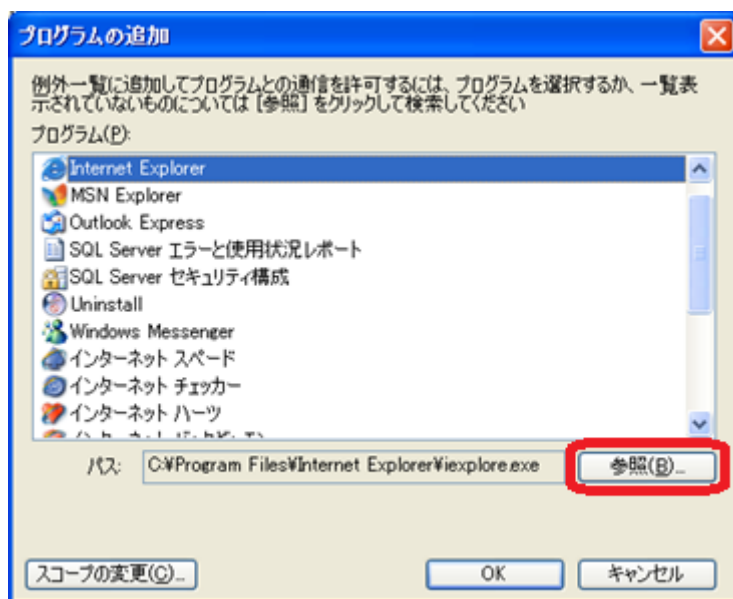
次のウィンドウが展開しますので [例外] タブを開きます。



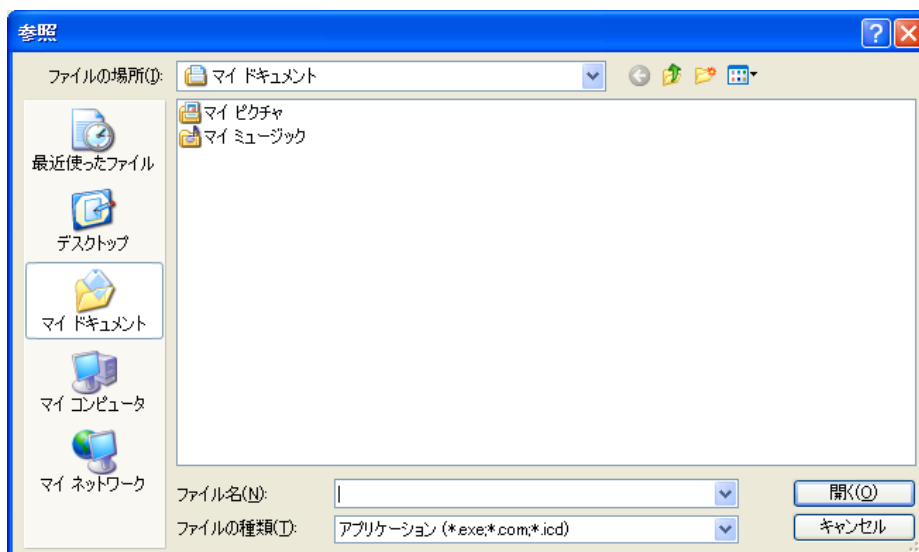
[例外] タブにて [プログラムの追加 (R)] ボタンを押します。



① まず sqlbrowser.exe を例外に設定します。[参照 (B)] ボタンを押します。



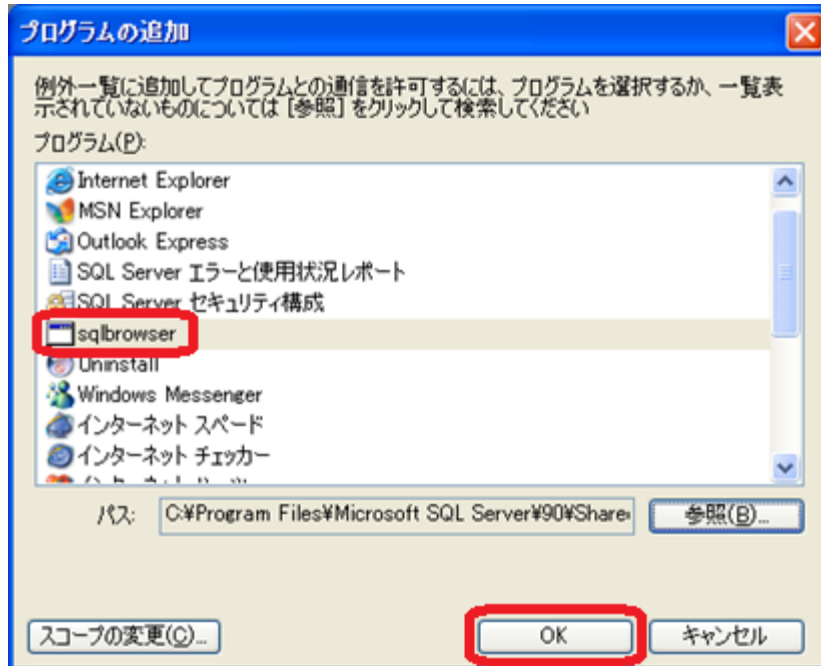
「参照」ウィンドウが展開します。



ここで、[ローカルディスク (C)] → [Program Files] → [Microsoft SQL Server] → [90] → [Shared] → [sqlbrowser.exe] を指定します。

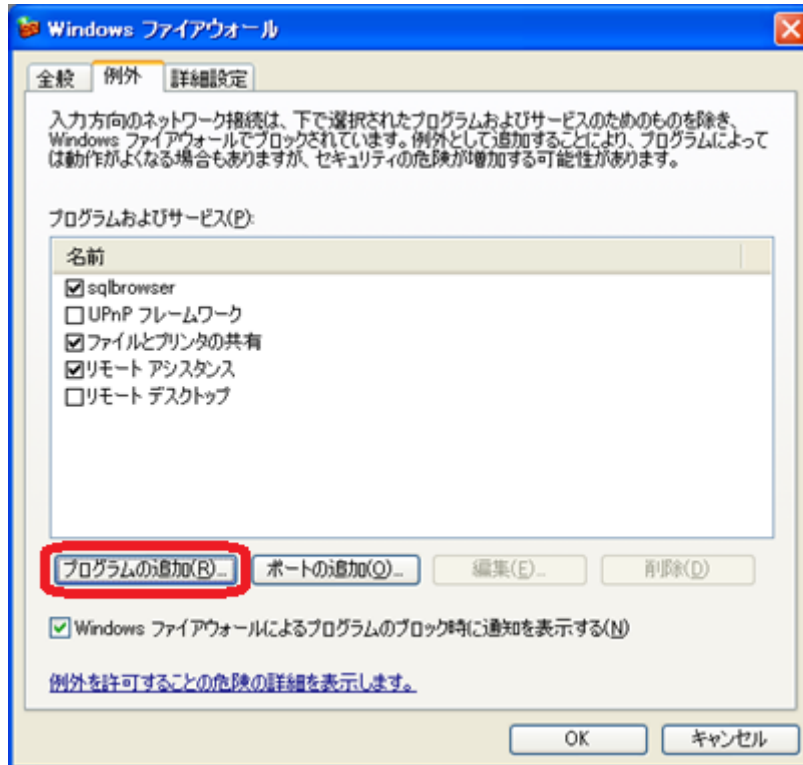


プログラム (P) の一覧に「sqlbrowser」が並びます。[OK] ボタンで決定してください。

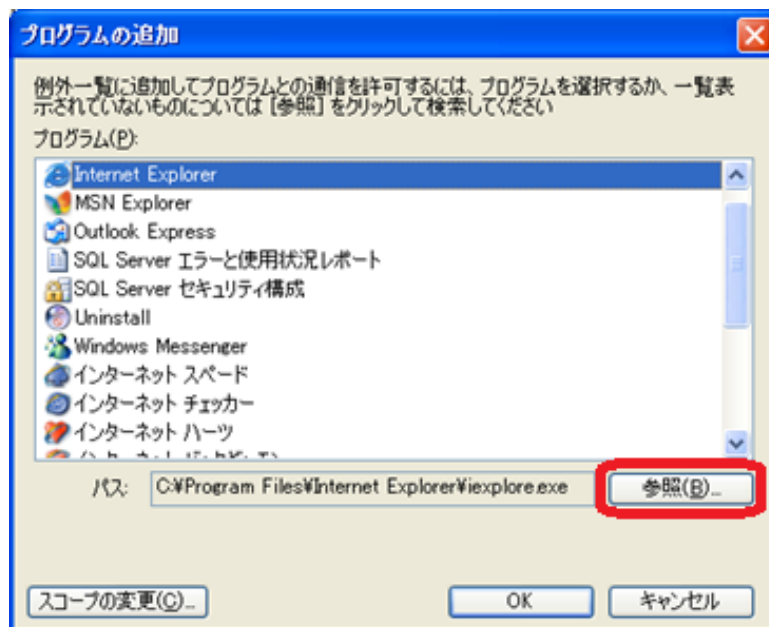


※ [OK] ボタンを押した際、既に登録済みであるメッセージが出た場合、sqlbrowser.exe の登録は不要です。[キャンセル] ボタンを押し、次の sqlservr.exe の設定に進んでください。

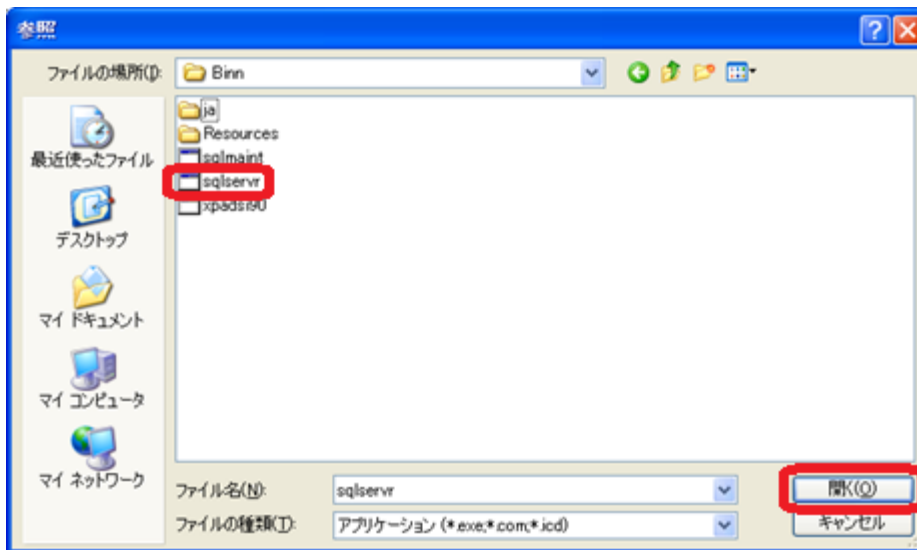
② 続いて sqlservr.exe を例外に設定します。[プログラムの追加 (R)] ボタンを押します。



「プログラムの追加」ウィンドウが展開します。[参照 (B)] ボタンを押します。

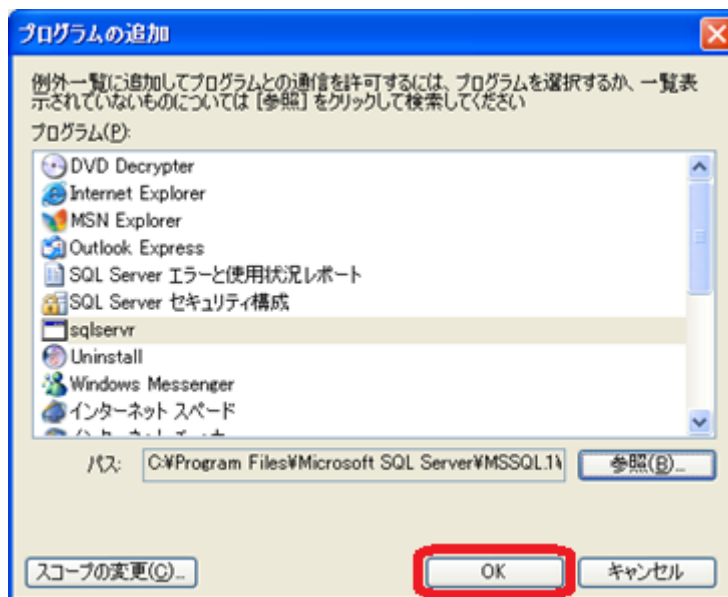


「参照」 ウィンドウが展開します。



ここで、[ローカルディスク (C)] → [Program Files] → [Microsoft SQL Server] → [MSSQL.1] → [MSSQL] → [Binn] → [sqlservr.exe] を指定します。

プログラム (P) の一覧に「sqlservr」が並びます。[OK] ボタンで決定してください。



※ [OK] ボタンを押した際に、既に登録済みであるメッセージが出ましたら、sqlservr.exe の登録は不要です。[キャンセル] ボタンを押し、設定を完了してください。

以上で、設定が完了です。クライアントからの接続をご確認ください。

#### 4. SQL Server 2005 [Windows 7 32bit/64bit の場合]

※以下の手順は、Windows ファイアウォールが「有効」に設定されているサーバ(親機)が対象です。  
クライアント(子機)における設定は不要です。

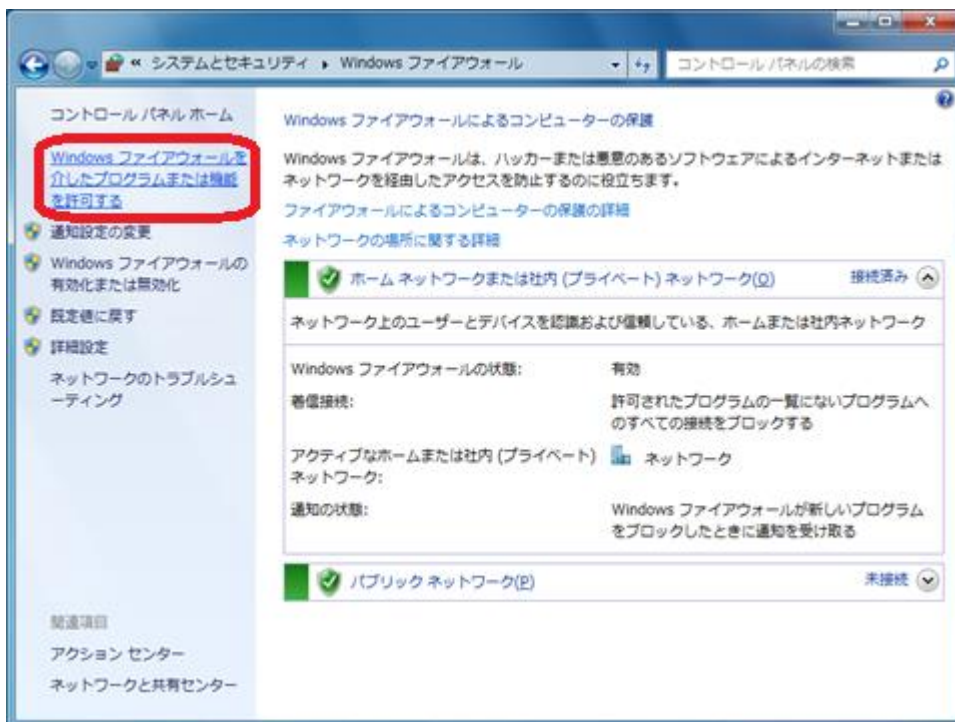
1. [スタート] ボタン→ [コントロール パネル] をクリックします。
2. [システムとセキュリティ] をクリックします。



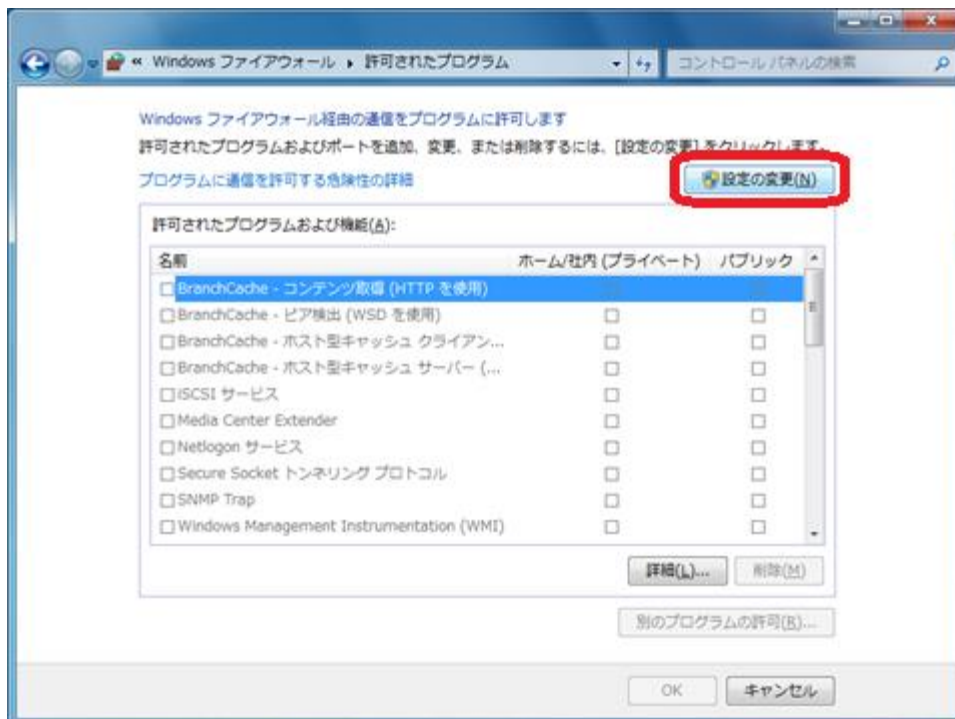
3. [Windows ファイアウォール] をクリックします。



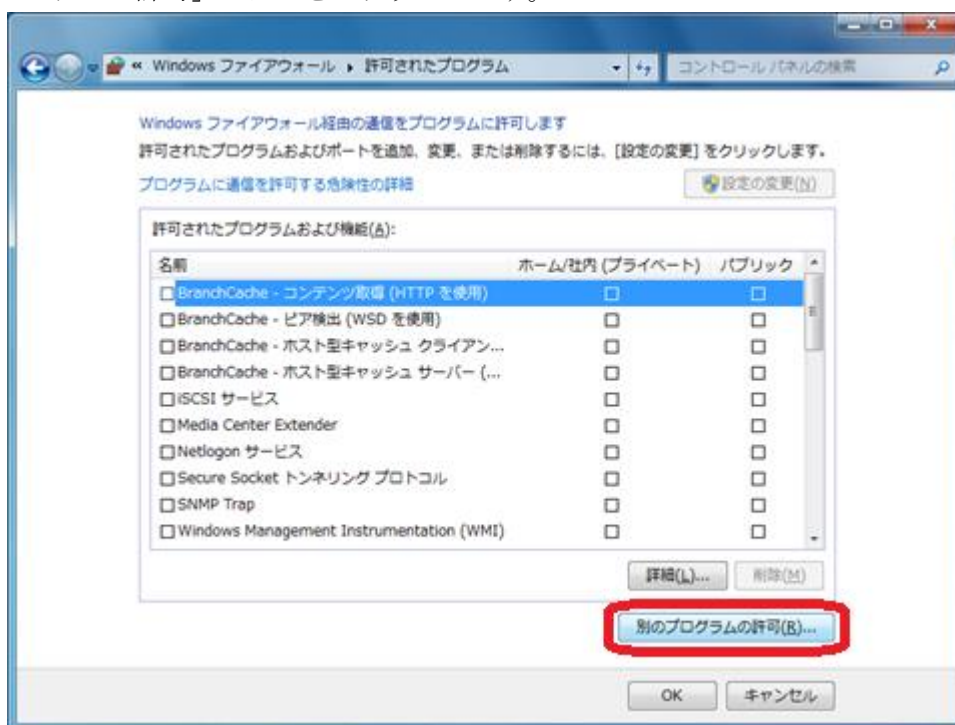
4. [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する] をクリックします。



5. 「設定の変更」 ボタンをクリックします。



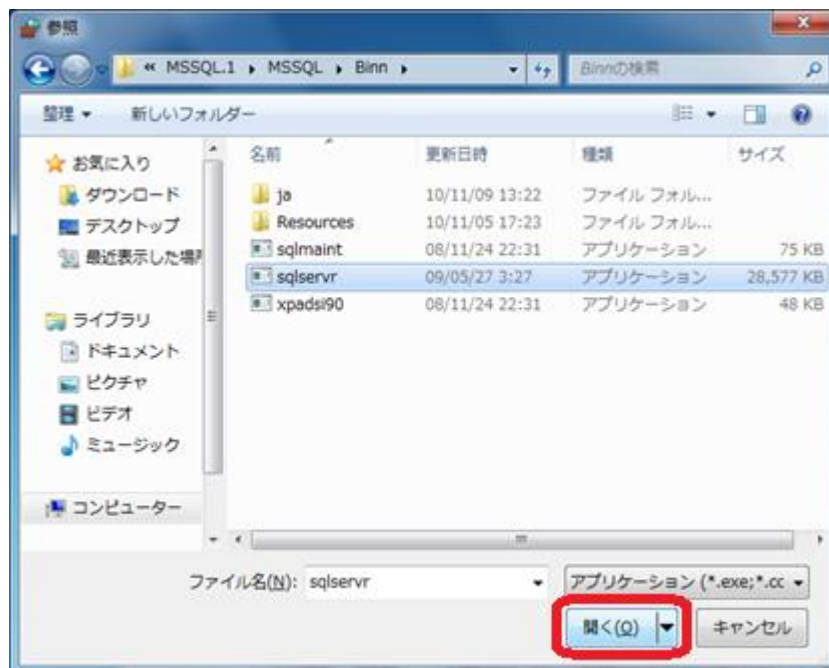
6. 「別のプログラムの許可」 ボタンをクリックします。



7. [プログラムの追加] ダイアログで、[参照] ボタンをクリックします。



8. [参照] ダイアログでファイル「sqlservr.exe」を選択し、[開く] ボタンをクリックします。



• 32 ビット OS の場合

[コンピューター] → [ローカル ディスク(C:)] → [Program Files] →

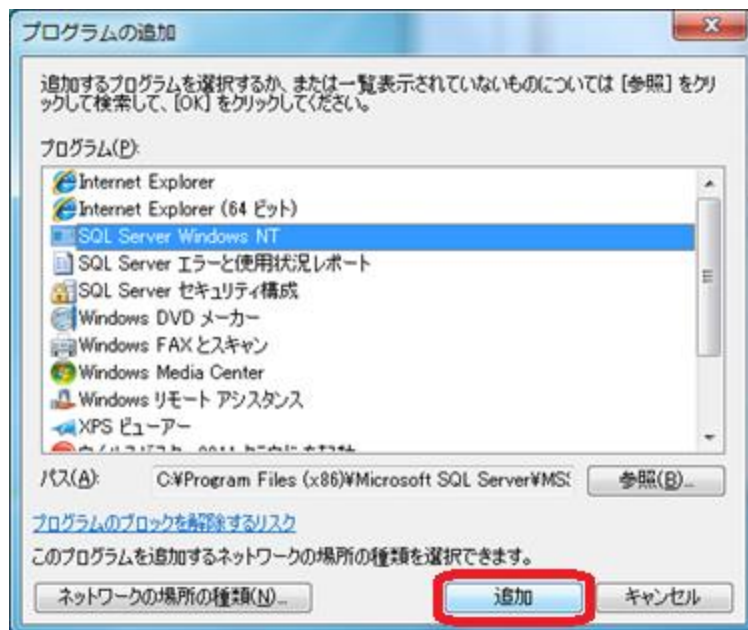
[Microsoft SQL Server] → [MSSQL.1] → [MSSQL] → [Binn] → [sqlservr.exe]

• 64 ビット OS の場合

[コンピューター] → [ローカル ディスク(C:)] → [Program Files (x86)] →

[Microsoft SQL Server] → [MSSQL.1] → [MSSQL] → [Binn] → [sqlservr.exe]

9. [プログラムの追加] ダイアログで、「SQL Server Windows NT」を選択し、[追加] ボタンをクリックします。

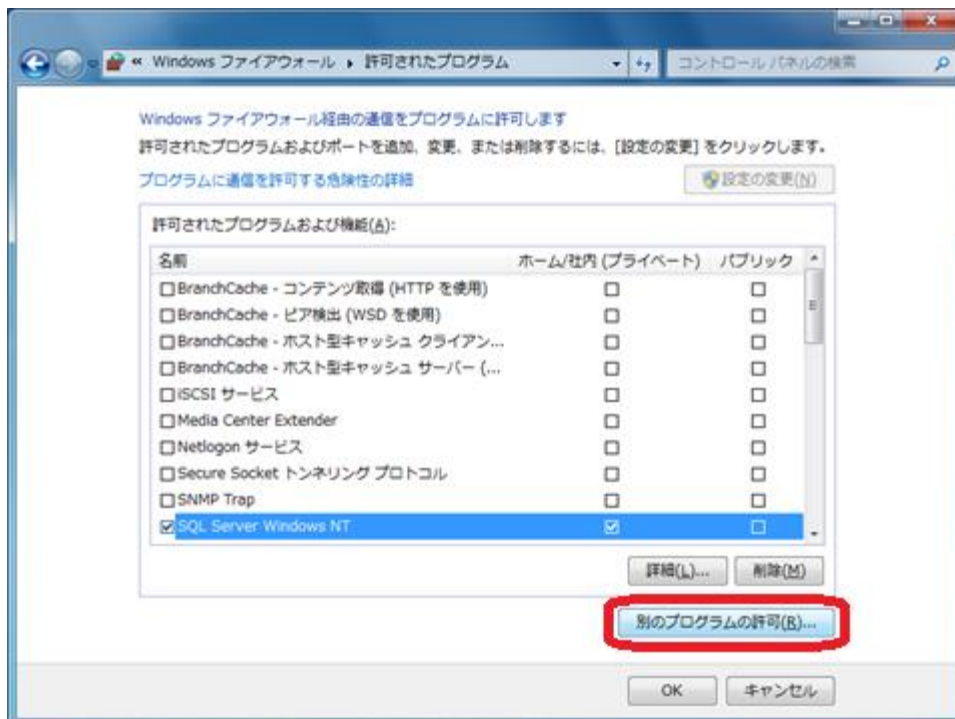


以下のメッセージが表示された場合は、「SQL Server Windows NT」に対する設定は不要です。  
[OK] ボタン→ [プログラムの追加] ダイアログで、[キャンセル] ボタンをクリックします。





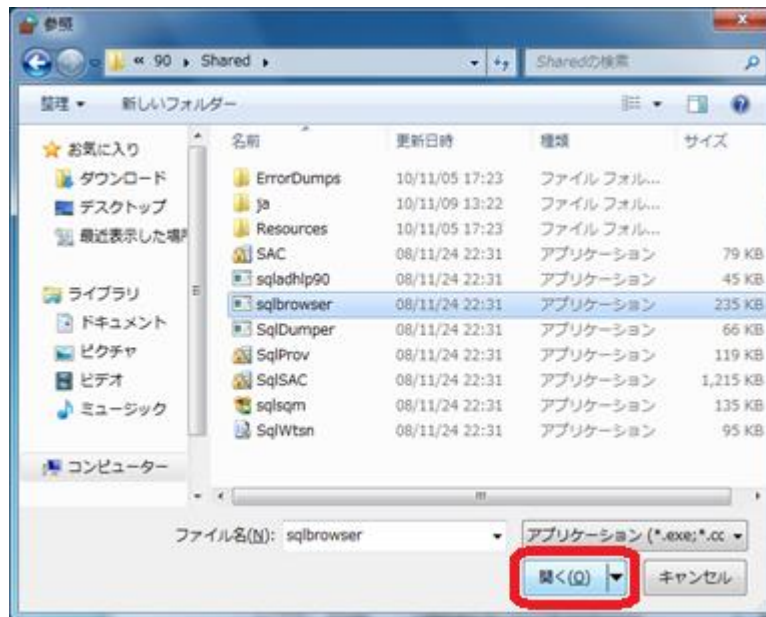
10. [別のプログラムの許可] ボタンをクリックします。



11. [プログラムの追加] ダイアログで、[参照] ボタンをクリックします。



12. [参照] ダイアログでファイル「sqlbrowser.exe」を選択し、[開く] ボタンをクリックします。



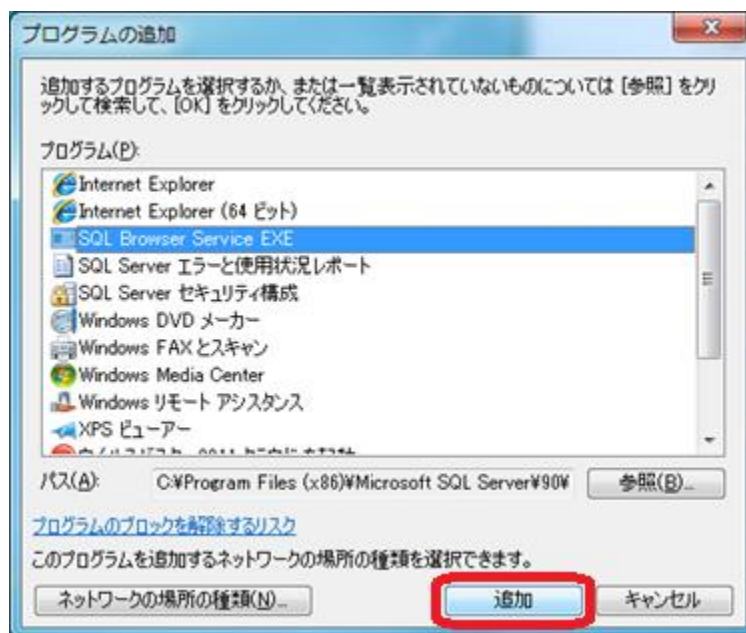
・ 32 ビット OS の場合

[コンピューター] → [ローカル ディスク(C:)] → [Program Files] → [Microsoft SQL Server] → [90] → [Shared] →

・ 64 ビット OS の場合

[コンピューター] → [ローカル ディスク(C:)] → [Program Files (x86)] → [Microsoft SQL Server] → [90] → [Shared] → [sqlbrowser.exe] となります。

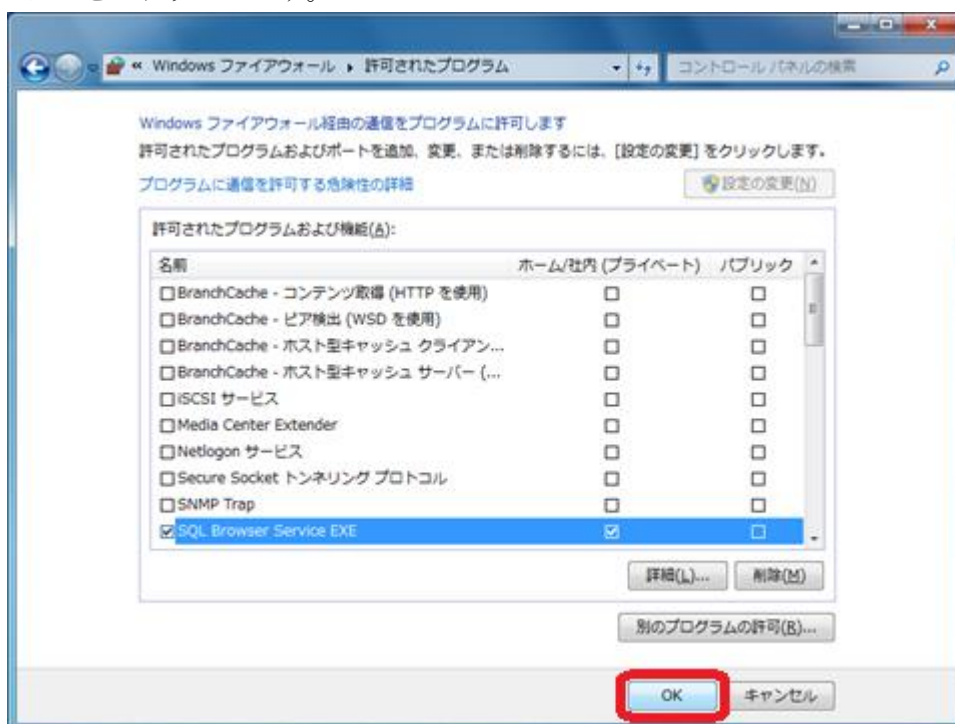
13. [プログラムの追加] ダイアログで、「SQL Browser Service EXE」を選択し、[追加] ボタンをクリックします。



※以下のメッセージが表示された場合は、「SQL Browser Service EXE」に対する設定は不要です。  
[OK] ボタン→ [プログラムの追加] ダイアログで、[キャンセル] ボタンをクリックします。



14. [OK] ボタンをクリックします。



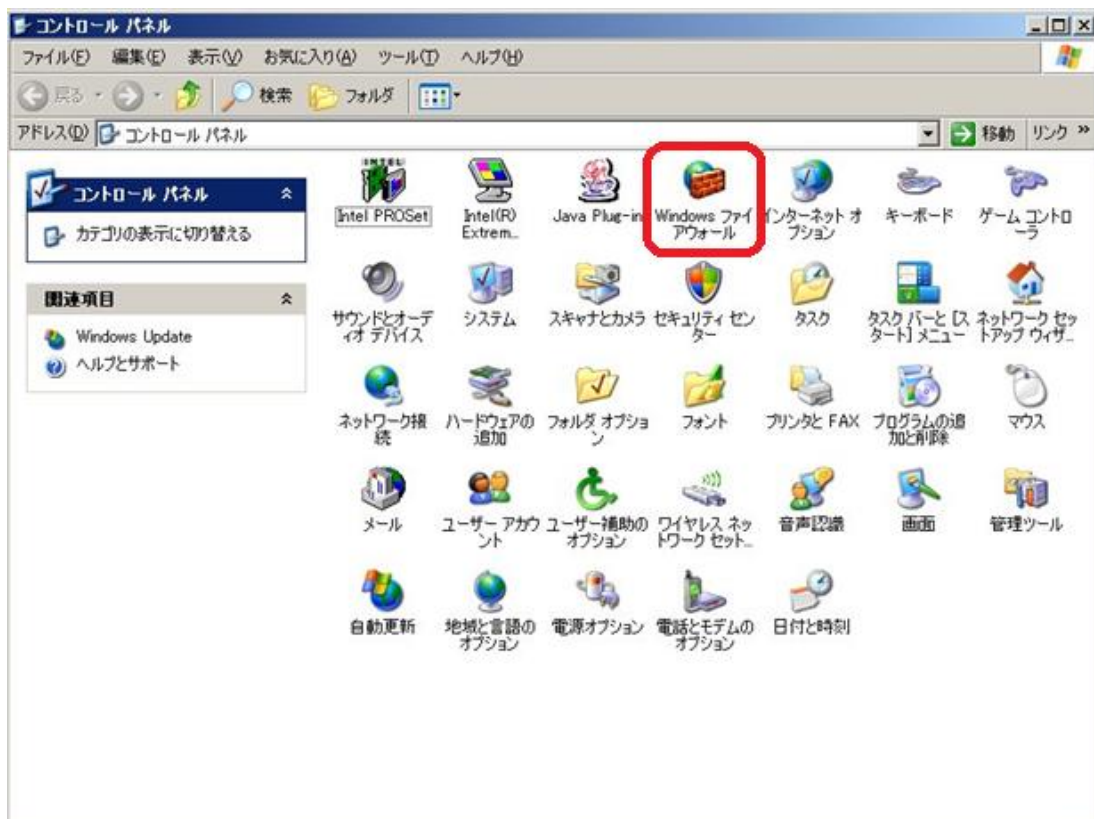
以上で設定は完了です。クライアントからの接続をご確認ください。

## 5. MSDE [Windows XP の場合 Port:1433]

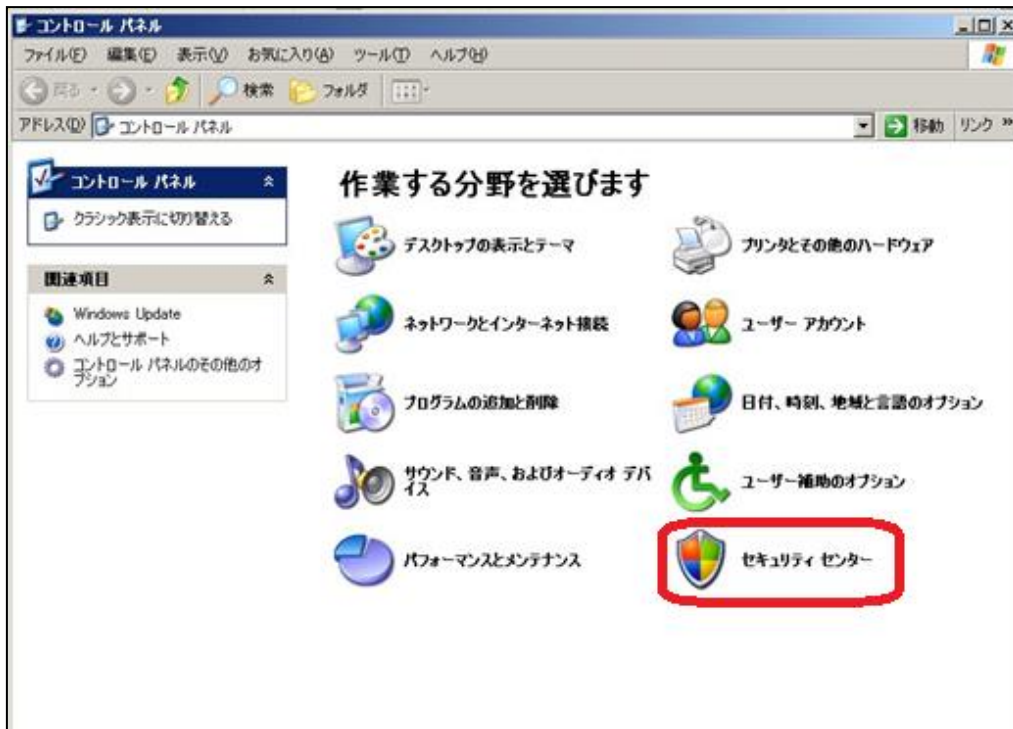
※ 以下の手順はサーバ機で Windows ファイアウォールが「有効」に設定されている場合に、サーバ機で行う必要があります。  
また、クライアントマシンが Windows XP であっても、クライアント側での設定は不要です。

[スタート] ボタン → [コントロールパネル] を開いてください。

(クラシック表示の場合) [Windows ファイアウォール] をクリックしてください。



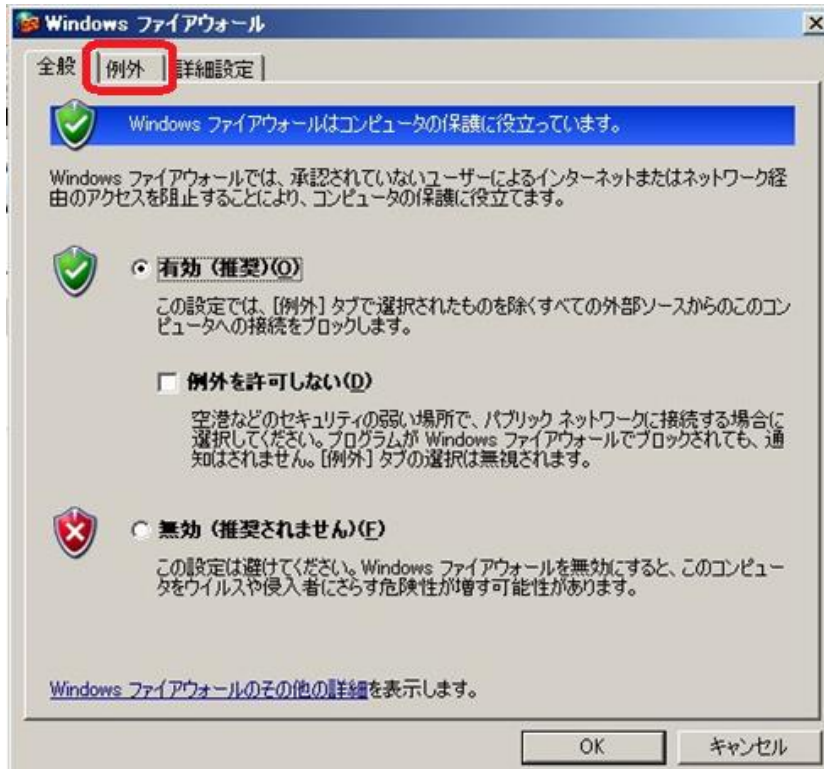
(カテゴリ表示の場合) [セキュリティセンター] をクリックしてください



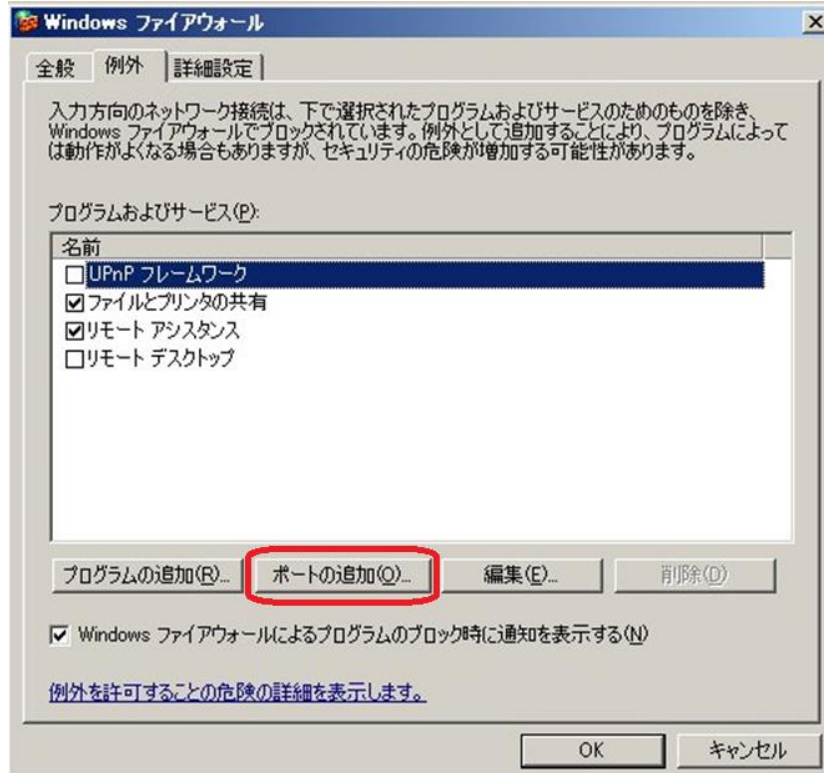
次の画面が表示されますので「Windows ファイアウォール」をクリックしてください。



次のウィンドウが表示されます。「例外」タブをクリックしてください。



次のウィンドウが表示されますので「ポートの追加(O)」をクリックしてください。

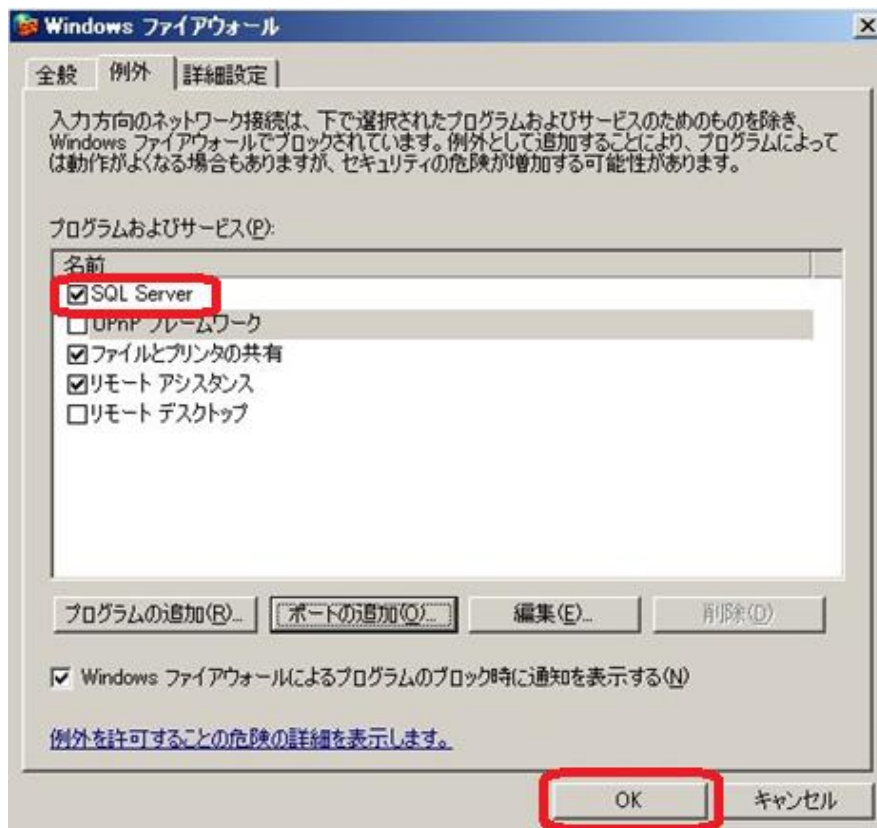


次のウィンドウが表示されますので、名前・ポート番号を入力します。[TCP(T)] チェックが付いていることを確認後、「OK」をクリックしウィンドウを閉じます。



- ・名前(N) : 識別名ですので任意に設定します。画面の例では SQL Server としています。
- ・ポート番号(P) : 1433 と半角で入力します。(固定)

「SQL Server」の項目が追加され、チェックが入っているのを確認後、「OK」をクリックします。



以上で設定は完了です。